

## 留学生日本語教育センター

### はじめに

留学生日本語教育センターは一九七〇（昭和四十五）年に設立された外国語学部附属日本語学校を母体とする。その後、一九八六（昭和六十一）年に留学生教育教材開発センターが設立され、一九九二（平成四）年、これと一体となって、留学生日本語教育センターとなったのである。

日本語学校の主要な業務は学部進学留学生のための日本語を始めとする予備教育である。その他、中国政府派遣教員研修生や日本語・日本文化研修留学生（略称・日研生）も受け入れた。

留学生教育教材開発センターは全国共同利用施設として発足し、日本語学校での実験授業を通じて留学生用の教材を開発することを任務とした。また、このセンターの業務の一つとして外国教育施設日本語指導教員派遣事業（略称 REX II Regional and Educational Exchanges for Mutual Understanding）の事前研修がある。

留学生日本語教育センターになってからもこれらの業務は受け継がれ、さらに、新たに教員研修や大学院レベルの研究留学生も受け入れることになった。

## 一 外国語学部附属日本語学校

### 1 設立のいきさつ

国費の学部留學生に対する予備教育は、一九五四（昭和二十九）年度から一九五九（昭和三十四）年度までは一年制の留學生別科で行い、一九六〇（昭和三十五）年度から一九六九（昭和四十四）年度までは三年制の留學生課程で行ってきた。しかし、大学で専門教育をほどこしつつ日本語の授業を行うという方式（制度）はいろいろ問題点を含んでいた。そこで、再び一年制の予備教育をすることになった。しかし、留學生別科や留學生課程ではなく、新しい組織の日本語学校で行われることになったのである。留學生別科、留學生課程とは別組織の日本語学校が設立されるのには、それなりの経緯があったはずである。これらについては、窪田富男（「留學生に対する日本語——教育国策としての昭和29年～昭和45年の時代を中心に——」『講座日本語と日本語教育 第一五巻 日本語教育の歴史』明治書院、一九九三年）にくわしい。そこから引用すると、以下のとおりである。

昭和四〇年八月に「外国人留學生の日本語教育に関する調査研究会議」（会長、鳥飼利三郎）が「日本語教育の改善充実に関する方策について（案）」を文部省調査局長に提出し、これを承けた「外国人留學生問題調査研究に関する会議」（会長、篠原卯吉）は、昭和四三年八月に「日本語学校・日本語教育研究センターの設立について（報告）」を文部省大学学術局長に提出した。この「日本語学校」は、報告書にもられた意図と同じものではないが、前述の「東京外国語大学外国語学部附属日本語学校」となり、「日本語教育研究センター」は少し遅れて「国立国語研究所日本語教育部」（昭和四九年設置、現在

の日本語教育センター) となって実現した。

(同書二〇六ページ)

## 2 創設期 一九七〇—一九七二年

### 創設時の体制

外国語学部附属日本語学校は一九七〇(昭和四十五)年に設立された。新しい組織なので本部のある西ヶ原キャンパスとは別のところに建設されることになっていた。しかし、最初の年は新校舎が間に合わず、西ヶ原キャンパスで授業が行われた。

校長は外国語学部の教授から選ばれることになっていた。初代校長は、特設日本語科の高橋一夫であり、高橋の要請で教務主事に国際学友会の鈴木忍が就任した。教官は川瀬生郎と伊勢田涼子である。

一九七一年、府中市住吉町五—〇—一に校舎が完成し、ここで授業をすることになった。校舎には寮が併設され、寮の定員は六〇名となった。これは日本語学校の定員でもある。同年から順次、体育館や理科実験室、視聴覚教室など設備が充実し、教官も定員(一八名)を満たすことになった。

テキストは、鈴木忍が経験を生かし新たな構想のもとに一年間の集中日本語教育に適したものを作り始めた。初めのころはプリントの体裁だった。このころのことについては鈴木忍(「日本語学校紹介」「日本語学校論集」一号、一九七四年)、川瀬生郎(「鈴木忍と日本語教育」「日本語学校論集」五号、一九七八年)にくわしい。

学部留学生教育課程

授業科目	授 業 時 間 数							備 考
	学 期	週当たり授業時間数		授業 週数	総 時 間 数			
		文科系	理科系		文科系	理科系		
日 本 語	第 1 学期	前期	時間 27	時間 27	週 7	時間 189	時間 189	
		後期	27	27	7	189	189	
	第 2 学期		19	19	18	342	342	
	第 3 学期		17	17	9	153	153	
	小 計					873	873	
日本事情	第 2・3 学期		2	2	27	54	54	
	小 計					54	54	
政治経済	第 1 学期後期		4		7	28		
	第 2 学期		6		18	108		( ) は選択の 時間数
	第 3 学期		8(2)		9	72		
	小 計					208		
日 本 史	第 1 学期後期		4		7	28		
	第 2・3 学期		6		27	162		
	小 計					190		
数 学	第 1 学期	前期	2	2	4	8	8	文科の経済学 経営学専攻の 者は必修
		後期	4	6	7	28	42	
	第 2・3 学期		6	6	27	162	162	
	小 計					198	212	
理 科 一 般	第 1 学期			2	11		22	
	第 2 学期			3	18		54	
	第 3 学期			4	9		36	
	小 計						90	
物 理 又 は 生 物	第 2 学期			3	18		54	
	第 3 学期			4	9		36	
	小 計						90	
英 語	第 2・3 学期		2	2	27	54	54	
異文化間 心 理 学	第 1・2・3 学期		2	2	41	82	82	
総 計				41		*1,461 1,469	1477	英語、日本事 情は免除あり

\* 日本史を選択する場合は1,461時間、数学を選択する場合は1,469時間である。

一 外国語学部附属日本語学校

研究留学生教育内容

授業科目	授業内容	備考
日本語 I	初級から中級へ	修業年限：半年 入学時期：4月、10月 修了後各国立大学へ進学する。
日本語 II	中級から上級へ	
政治経済	専攻・日本語レベルに応じて行う	
日本文化論		

研究留学生教育課程

授業科目	授業時間数			備考
	週当たり授業時間数	授業週数	総時間数	
日本語 I	21	20	420	日本語のレベルによって日本語 I または日本語 II をとる。
日本語 II	19	20	380	
政治経済	2	20	40	
日本文化論	2	20	40	

この他に

CBI (Computer Based Instruction)

個人指導 (指導教官のところへ出向いての専門指導) の時間をとってある。

学部留学生教育内容

専攻	授業科目	備考
文科	日本語学	修業年限：1年 入学時期：4月 修了後各国立大学の学部へ進学する。
	経済学又は経営学	
	上記以外の専攻	
理科	日本語、日本事情、数学、理科一般、化学、異文化間心理学、(英語)、 <u>日本史</u> 、 <u>数学</u> から1科目を選択する。	

( ) 内は履修の必要のある者のみ必修。

### 教育システムの特徴

一年間という短期間に日本語ゼロの状態の学生を大学教育が受けられるまでにするには、日本語教育、その他の基礎教育（数学、理科、社会）に特段の工夫が必要である。そのため、三学期制で年間四一週間の集中教育が基本となっている。

日本語教育では、原則として一クラス八名という少人数制できまかな指導をするとともに、できるかぎりの視覚器材を活用して効率的なクラス運営をするようにされている。これらについては斎藤次郎（『一年で社説が読めた』研究社、一九九〇年）、小林幸江（『集中日本語教育の実際』『阪田雪子先生古希記念論文集 日本語と日本語教育』三省堂、一九九五年）にくわしい。

## 3 安定期 一九七三—一九八三年

### 基本的体制の確立

一九七三（昭和四十八）年に日本語のメイン・テキスト『日本語Ⅰ』『日本語Ⅱ』が完成した。年間行事、校務分掌など、現在のモデルもこの時期に確立したと言つてよい。

日中国交回復を契機に中国政府から日本語研修生受け入れの要請があり、一九七七（昭和五十二）年から三年間中国政府派遣日本語教員研修生を受け入れた。

また、七八年には、中国政府から日本政府に対し中国政府派遣留学生の予備教育のための教員派遣と資材の援助などの要請があった。本校は文部省留学生課の要請でこれらの業務も行うことになった。これは本校で行っているよう

一 外国語学部附属日本語学校

な一年間の予備教育を中国で行うというものである。

七九年、中国・吉林省長春にある東北師範大学赴日留学生予備学校に第一期の派遣要員として派遣されたのは、伊藤芳照と豊田豊子である。現在までの長春派遣者（非常勤・他機関の派遣者は除く）は次の通り。

- 一九七九年 伊藤芳照、豊田豊子
- 一九八〇年 松岡 弘
- 一九八一年 小林幸江
- 一九八二年 伊藤芳照、守屋宏則
- 一九八三年 大木隆二、加藤 弘
- 一九八四年 河原崎幹夫、杉原正勝
- 一九八五年 吉川武時、五味正信
- 一九八六年 吉岡英幸、小林幸江
- 一九八七年 窪田富男（外国語学部）、斎藤純男
- 一九八八年 野田時寛、加藤 弘
- 一九八九年 吉川武時、酒井順子
- 一九九〇年 松田徳一郎（外国語学部）、飯野清士
- 一九九一年 野田時寛
- 一九九二年 湯本昭南（外国語学部）、善如寺俊幸
- 一九九三年 田山のり子
- 一九九四年 楠本徹也、猪崎保子
- 一九九五年 川上京子
- 一九九六年 姫野昌子

一九九七年 柏崎雅世  
一九九八年 伊丹千恵

### 日本語教育の多様化

このころ国際化が叫ばれ、日本語教育も多様化した。そして、一九八〇（昭和五十五）年、本校では日本で最初に日本語・日本文化研修留学生（略称・日研生）を受け入れることになった。これは外国の大学で三年以上に在学中の者で、一年間日本で日本語または日本事情の特別研修を受けるというものである。

この日本語・日本文化研修留学生は一九八六（昭和六十一）年まで受け入れていた。その準備をしていたとき担当者の中から「日研生」という略称が自然に生まれた。この略称は後に全国の日研生を受け入れている大学で使われるようになった。日研生を日本で最初に受け入れたのは本校だが、現在は受け入れていない。

一九七九（昭和五十四）年三月、留学生教育に大きな足跡を残した鈴木忍が退官した。

## 4 活動期 一九八四―一九九〇年

このころ、内外の多様化する留学生のニーズに対応するため日本語学校から脱皮しようとして、いくつかのセンター構想が模索された。

一九八三（昭和五十八）年、東北師範大学赴日留学生予備学校で使用される「中国人学生（理科系）のための日本語」（略称「長春テキスト」）がわずか六か月間に完成を見た。これは大木隆二を中心に全教官が関係して作成され

た。このテキストの特徴を一言で言えば、文型が非常にくわしく、詳細に分類されているということだろう。また、中国人向けであるところから、漢字の提出にやらコントロールをしなければならなかったことである。これについては大木隆二（『中国人学生（理科系）のための日本語』をめぐって——新教材作成から現地教育の実施まで）『日本語学校論集』一〇号、一九八三年）にくわしい。

また同年、これまで使われていた『日本語Ⅰ』の改訂作業が始められた。このテキストは数年間使ってみてさらに改良を加え、一九八六（昭和六十二）年『初級日本語』として三省堂から出版された（現在は凡人社から）。この改訂作業の実際については、姫野昌子（『初級テキスト『日本語Ⅰ』（改訂版）のできるまで』『日本語学校論集』一四号、一九八七年）にくわしい。

八四年にいわれる「留学生十万人受け入れ計画」が発表されたが、寮の定員や教室数から限定された数の留学生しか受け入れられない本校にはあまり影響が生じなかった。

## 5 留学生教育教材開発センターの設置

### 留学生教育教材

模索されていたいろいろなセンター構想が、ようやく一九八六（昭和六十二）年、留学生教育教材開発センターとして結実した。このセンターは、留学生用の教材を開発することを使命とする。当初教官定員は六名であったが、後に八名になった。センターは三部門からなり、

### 第一部門 留学生用社会科学教育教材

第二部門 留学生用理科教育教材

第三部門 留学生用視聴覚教材

を担当する。開発した教材はその後の留学生日本語教育センター改組後の分も含め、巻末の「センター著作物一覧」のなかに含まれている。

## 6 激動期 一九九〇—一九九二年

REXの始まった一九九〇（平成二）年から留学生日本語教育センターが発足した九二年までを激動期と位置づけることができよう。

### REX計画事前研修

文部省は自治省とともに地域の高等学校（一部小・中学校を含む）の教員に研修をほどこし、日本語教員として外国の教育施設に派遣する事業を計画した。外国教育施設日本語指導教員派遣事業（略称REX＝Regional and Educational Exchanges for Mutual Understanding）である。一九九〇（平成二）年からセンターはその事前研修を担当することになった。このため教官定員が二名増員された。REX計画の概要については楠本徹也（文部省REX計画事前研修報告）「留学生日本語教育センター論集」二〇号、一九九四年）、横田淳子（REX計画事前研修の現状と課題）「日本語教育論文集——小出詞子先生退職記念」凡人社、一九九七年）に詳しい報告がある。

REX事前研修の期間及び内容は次の通り（一九九八年度の場合）。

## 二 留学生日本語教育センター

期間

四月七日から七月七日までの月曜日から金曜日まで。  
各日午前九時から午後三時まで。一コマ九〇分で三コマ。  
日によっては午後四時四〇分までで四コマのときもある。

研修内容

研修概観

REX事業、事前研修を概観する

三コマ

日本語教育概観

日本語教育を概観する

一コマ

日本語基礎

日本語の構造的特質を、体系的・具体的に把握する

四四コマ

日本語教授法

外国語学習と教育指導面双方から、日本語指導法のありかたについて考察する。指導具体例の観察、及び演習を通して、実践的指導技術・能力を開発する

五六コマ

教育実習

英語圏の生徒への日本語教育実習を通して、即戦力を養成する

※

語学研修

赴任先で必要となる生活英語、日本語紹介英語、文法を説明するための英語力を強化する

一七コマ

日本事情

日本文化・事情及び、赴任国事情をさまざまな角度から考察し、現地での文化・教育交流、相互理解の促進に備える

二四コマ

※教育実習には二週間を取り、月一金の毎日午前九時―午後三時を当てる。

### 二 留学生日本語教育センター

一九九二（平成四）年、日本語学校、留学生教育教材開発センターが改組され、留学生日本語教育センターが設立された。初代センター長は新田実、二代目センター長は松田徳一郎である。松田までは外国語学部の教授が学長より

任命されていた。

一九九六（平成八）年からセンター長は、教官会議の議を経てセンター教官の中から選んだセンター長候補を学長に具申できるようになった。その一代目は姫野昌子が選ばれ現在に至っている。

九三年から大学院レベルの研究留学生対象の予備教育が始められた。一方、学部進学留学生については、文部省の方針で定員が拡充されることになった。本センターの学部留学生の定員は七〇名となったが、依然、寮、教室数の制限から、それ以上の受け入れは不可能なので、拡充された部分は大阪外国語大学の留学生日本語教育センターで受け持つことになった。

留学生日本語教育センターは三部制（事務部を入れると四部制）をとる。各部の分担は次の通り。

留学生教育部

学部留学生 学部進学留学生に対する予備教育

研究留学生 大学院レベルの学生に対する六か月間の予備教育

日本語教育推進企画部

教材開発

R E X

中国長春市東北師範大学派遣

生活指導部

生活指導

カウンセリング

留学生日本語センターになって、外国語学部の慣行が多く採り入れられるようになった。

センター発足から以後は変革期と言える。新キャンパスに移転統合した以後を「変革期」と言うとするならば、それまでは「変革予備期」とでも言えようか。

センター著作物一覧

◇逐次刊行物

『日本語学校論集』

- 一号（一九七四）、二号（一九七五）、三号（一九七六）、四号（一九七七）、五号（一九七八）、六号（一九七九）、七号（一九八〇）、八号（一九八一）、九号（一九八二）、一〇号（一九八三）、一一号（一九八四）、一二号（一九八五）、一三号（一九八六）、一四号（一九八七）、一五号（一九八八）、一六号（一九八九）、一七号（一九九〇）、一八号（一九九一）

『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』

- 一九号（一九九三）、二〇号（一九九四）、二一号（一九九五）、二二号（一九九六）、二三号（一九九七）、二四号（一九九八）、二五号（一九九九）

『センター年報』

- No. 1（一九九四）、No. 2（一九九五）、No. 3（一九九六）、No. 4（一九九七）、No. 5（一九九八）

『Welcome to 東京外国語大学留学生日本語教育センター Student Handbook』

- （一九九四、一九九五、一九九七、一九九九）英文

『GUIDE BOOK ガイドブック 東京外国語大学留学生日本語教育センター』

(一九九四、一九九五、一九九六、一九九八) 日・英文

『日本語学校文集』(一九八〇―一九九二)

『東京外国語大学留学生日本語教育センター文集』(一九九三―一九九九)

◇報告書

『東京外国語大学留学生日本語教育センター一九七〇年度―一九九三年度入学生を対象とする国費学部留学生に関する調査報告』(一九九五)

『国費学部留学生の眼から見た日本の留学生教育―予備教育と学部教育のありかたをめぐって―東京外国語大学留学生日本語教育センター修了生ラウンドテーブル報告書』(一九九八)

『国費学部留学生予備教育―その現状と課題―東京外国語大学留学生日本語教育センター自己点検・評価報告書 No.2』(一九九九)

『REX異文化言語教育研究会報告書』No.1(一九九四)、No.2(一九九五)、No.3(一九九七)

◇委託調査研究

・文化庁日本語教育研究委託

『外国人留学生の学習困難点から見た日本語教育に関する研究』

「助詞に関する誤用例(1)」(一九七六)

「助詞に関する誤用例(2)」(一九七七)

「動詞に関する誤用例(1)」(一九七八)

「動詞に関する誤用例(2)」(一九七九)

「外国人留学生の日本語能力の標準と測定」中間報告——外国人留学生に対する大学入学のための日本語教育の内容——

「(1) 音声・文字・文法・言語活動」(一九八〇)

「(2) 語彙(I)」(一九八〇)

「外国人留学生の日本語能力の標準と測定——外国人留学生に対する大学入学のための日本語教育の内容——」

「(3) 音声・文字・文法・言語活動」(一九八二)

「(4) 語彙(II・III)」(一九八二)

「(5) 測定」(一九八二)

・文部省日本語教育研究委託

「外国人子女の日本語指導に関する調査研究 中間報告書」(一九九七)

「外国人子女の日本語指導に関する調査研究 最終報告書」(一九九八)

「外国人子女の日本語指導に関する調査研究 最終報告書——資料集」(一九九八)

◇教材

・日本語教材

【日本語Ⅰ】			一九七〇
【日本語Ⅱ】			一九七三
【日本語Ⅲ】			一九七六
【にほんごのはつおん】			一九七二
【日本語基礎練習問題（文字・読解）】			一九七八
【初級日本語】		凡人社	一九九四
【初級日本語 テープ】		凡人社	一九九四
【初級日本語 れんしゅう】		凡人社	一九九四
【初級日本語 かいわ】		凡人社	一九九五
【初級日本語 単語帳【英語版】】		凡人社	一九九四
【初級日本語 単語帳【中国語版】】		凡人社	一九九五
【初級日本語 単語帳【タイ語版】】			一九九一
【初級日本語 単語帳【インドネシア語版】】			一九九一
【初級日本語 単語帳【スペイン語版】】			一九九一
【初級日本語 文法練習帳】		凡人社	一九九四
【初級日本語 漢字練習帳Ⅰ】		凡人社	一九九四
【初級日本語 漢字練習帳Ⅱ】		凡人社	一九九五
【初級日本語 作文練習帳 試用版】			一九九八

二 留学生日本語教育センター

- |                            |              |      |  |
|----------------------------|--------------|------|--|
| 【初級日本語 はじめての聴解 テープ・ワークシート】 |              |      |  |
| 【初級日本語 (漢字版)】              | 大新書局 (台湾)    | 一九九一 |  |
| 【初級日本語 かいわ】                | 大新書局 (台湾)    | 一九九一 |  |
| 【初級日本語 本文練習・文法練習Ⅰ】         | 大新書局 (台湾)    | 一九九一 |  |
| 【初級日本語 本文練習・文法練習Ⅱ】         | 大新書局 (台湾)    | 一九九一 |  |
| 【新編初級日語 上下冊】               | 吉林教育出版社 (中国) | 一九九六 |  |
| 【初級日本語 単語帳「マレー語版」】         | マレーシア工科大学出版局 | 一九九六 |  |
| 【中級日本語】                    | 凡人社          | 一九九四 |  |
| 【中級日本語 テープ】                | 凡人社          | 一九九四 |  |
| 【中級日本語 語彙・文型例文集】           | 凡人社          | 一九九四 |  |
| 【中級日本語 文法練習帳】              | 凡人社          | 一九九四 |  |
| 【中級日本語 漢字練習帳Ⅰ】             | 凡人社          | 一九九四 |  |
| 【中級日本語 漢字練習帳Ⅱ】             | 凡人社          | 一九九四 |  |
| 【中級日本語 本冊スクリプト (質問つき)】     |              | 一九九六 |  |
| 【中級日本語 ー読解・会話編Ⅰ】           |              | 一九九六 |  |
| 【上級日本語】                    | 凡人社          | 一九九八 |  |
| 【理科系留学生のための日本語読本ー試用版Ⅰ】     |              | 一九九三 |  |
| 【中国人学生のための初級日本語 (上) 第四版】   |              | 一九九八 |  |

- 【中国人学生のための初級日本語（下） 第四版】 一九九八
- 【中国人学生のための初級日本語（上） 練習問題 第四版】 一九九八
- 【中国人学生のための初級日本語（下） 練習問題 第四版】 一九九八
- 【中国人学生のための初級日本語（上） 単語帳・解説 第四版】 一九九八
- 【中国人学生のための初級日本語（下） 単語帳・解説 第四版】 一九九八
- 【実力日本語 ―豊かな語彙・表現力をめざして―（上）】 一九九九  
凡人社
- 【実力日本語 練習問題（上）】 一九九九  
凡人社
- 【実力日本語 単語・文法解説書 中国語版（上）】 一九九九  
凡人社
- 【外国人児童生徒のための日本語指導】 ぎょうせい
- 第1分冊「カリキュラム・ガイドラインと評価」 一九九八
- 第2分冊「算数（数学）・理科の教科書―語彙と漢字―」 一九九八
- 第3分冊「中国語版 文法説明」 一九九九
- 第4分冊「ポルトガル語版 文法説明」 一九九九
- ・社会科学教材
- 【中・上級社会科学系統解説教材テキストバンク】 一九九八
- 【中・上級社会科学系統解説教材テキストバンク】 一九九八
- 【留学生のための日本史】 一九九〇

WINDOWS FD (No.1, No.2)

山川出版社

二 留学生日本語教育センター

- |                             |       |      |
|-----------------------------|-------|------|
| 「留学生のための日本史<br>―練習問題集―」     | 山川出版社 | 一九九〇 |
| 「留学生のための日本史<br>―学習者用ノート―」   | 山川出版社 | 一九九〇 |
| 「留学生のための日本史<br>テープ」         | 山川出版社 | 一九九〇 |
| 「留学生のための日本経済」               |       | 一九九二 |
| 「留学生のための日本経済<br>―練習問題―」     |       | 一九九〇 |
| 「留学生のための日本経済<br>―学習者用ノート―」  |       | 一九九〇 |
| 「留学生のための日本経済<br>―資料集―」      |       | 一九九二 |
| 「留学生のための日本政治」               |       | 一九九二 |
| 「留学生のための日本政治<br>―練習問題集―」    |       | 一九九〇 |
| 「留学生のための日本政治<br>―学習者用ノート―」  |       | 一九九〇 |
| 「留学生のための短期教材<br>日本の政治」      |       | 一九九二 |
| 「留学生のための日本近代史」              |       | 一九九一 |
| 「留学生のための日本近代史<br>―練習問題集―」   |       | 一九九一 |
| 「留学生のための日本近代史<br>―学習者用ノート―」 |       | 一九九一 |
| 「留学生のための日本現代史」              |       | 一九九二 |
| 「留学生のための国際関係」               |       | 一九九二 |
| 「留学生のための国際関係<br>―練習問題集―」    |       | 一九九〇 |
| 「留学生のための国際関係<br>―学習者用ノート―」  |       | 一九九〇 |

- 「留学生のための日本地理」 一九九二
- 「留学生のための日本地理入門」 一九九一
- 「留学生のための地理問題集」 一九九一
- 「留学生のための地理ノート」 一九九一
- ・ 数学教材
- 「理工系留学生のための基礎数学」 一九九二
- 「理工系留学生のための基礎数学問題集」 一九九〇
- 「理工系留学生のための微分・積分」 一九九二
- 「理工系留学生のための微分・積分問題集」 一九九〇
- 「理工系留学生のための代数・幾何」 一九九二
- 「理工系留学生のための代数・幾何問題集」 一九九二
- ・ 理科教材
- 「留学生のための基礎科学」 一九九二
- 「留学生のための基礎科学入門」 一九九七
- 「留学生のための科学問題集」 一九九〇
- 「留学生のための物理Ⅰ」 一九九一

二 留学生日本語教育センター

【留学生のための物理Ⅰ問題集】

一九九一

【留学生のための物理Ⅱ】

一九九二

【留学生のための物理Ⅱ問題集】

一九九二

【留学生のための化学Ⅰ】

一九九二

【留学生のための化学Ⅰ問題集】

一九九二

【留学生のための化学Ⅱ】

一九九三

【留学生のための化学Ⅱ問題集】

一九九三

【留学生のための物理化学用語集】

一九八〇

・視聴覚教材

【留学生のための現代社会 高度経済成長】

ビデオテープ

一九八八

―教師用指導書―

一九九〇

―学習者用ノート―

一九九〇

【留学生のための現代社会 憲法と日本人の生活】

ビデオテープ

一九八九

―教師用指導書―

一九九一

―学習者用ノート―

一九九一

「留学生のためのビデオ教材 化学実験はこわくない」

ビデオテープ

一九九〇

―教師用指導書―

一九九二

―学習者用ノート―

一九九二

「留学生のためのビデオ教材 日本の歴史 ―米と時代―」

ビデオテープ

一九九一

―教師用指導書―

一九九三

―学習者用ノート―

一九九三

「留学生のためのビデオ教材 日本の地理 食卓から日本が見える」

ビデオテープ

一九九二

―教師用指導書―

一九九三

―学習者用ノート―

一九九三